人 つながる

生きる力　支える力　ゴキンジョ力

男女共同参画社会へ 一歩 いっぽ 近づくための情報誌

Pas à pas（パザパ）

No.8
2007.3

※パザパ:仏語で「一歩いっぽ」を意味します

人　つながる

生きる力　支える力　ゴキンジョ力

●子どもが好き、人が好き

日々の暮らしで出会う
さまざまな喜びや苦しみなどを
だれかと分かちあい
支えあうことができたら・・・・

なにが起きても　ダイジョウブ！
「ああ　わたしは　一人じゃないんだ・・・・」
それが　ひとつの
生きる豊かさではないでしょうか

見直してみませんか
あなたの　「人とのつながり」
今回はあちこちで「つながる」人たちを
取材してみました

ファミリー・サポート・センター

まかせて会員　田中かおり　さん

“ 向こう3軒両隣 ”、自分の家の両隣と向かいの3軒とは、お互いに親しくあいさつを交わしたり、助けあったりする日々の暮らしの一番小さな単位ではないでしょうか。ファミリー・サポート・センター※1の活動は、若い親子の子育てを地域の中で見守り助けていくことで、新たな “ 向こう3軒両隣 ” の関係を地域に根付かせようとしています。

6年前から、小鹿地区で、まかせて会員としてサポート活動を始めた田中さんは、今までに10人以上の子どもたちのサポートをしてきました。ご自身、中学生から保育園までの5人の子育て真っ最中のお母さんです。

●ふれあいの輪が広がる場に

ボランティアグループ
パンジーの会　真下優子　さん

高齢者との交流を通して、相互の親睦と学びあいを目的とするボランティアグループ「パンジーの会」。発足は平成9年4月、中島学区に居住し、地域のカルチャーセンターで学ぶ人たちが中心に活動しています。

2か月に一度、みなさんを招待し、歌や遊びをした後、手作りのお弁当を一緒にいただく会を開催しています。会場は、“ゆいまある”（社会福祉法人健生会／知的障害者通所更正施設）の食堂とホールを利用しています。

「開催もムリのない範囲で。高齢者の方々にも参加費を出していただくようにしたので、これまで10年近く続けてくることができたのだと思います」

「みなさんが外出の機会をつくることは大切ですし、外に出るためには勇気も必要です。服を着替えて、お化粧もして、おしゃれをすると、人って元気になるものなんです」

「一緒に歌って、遊びを通して自然に笑みがこぼれ、おいしい料理を食べると、また笑みがこぼれます。自然に会話もはずみます。そこから、いろいろつながっていくのですね。そのつながりは、とにかく話すところから始まります。私たちが作る料理は、その会話を引き出すためのスパイスです」

パンジーは、一つの株からどんどん増えるもの。そこに会の名前の由来があるそうです。「ふれあいの輪が広がる場にしたいという願いを込めてつけました」と代表の真下さんも、さわやかな笑顔で語っています。

1番左が真下さん

レクリエーション風景

「子どもが好き、人が好きなのです。自分の子もよその子も、ほっとけなくて。でも一生懸命かかわると子どもたちから得るものがとても多く、あたたかい気持ちにさせてくれます。悩み事を相談に来られたお母さんからは、話を聞くことしかできませんが、想像力を持って共感することで、私の中に思いやる心が生まれてくるのがうれしいですね」

きらきらと目を輝かせて話す田中さん。サポート活動を通して親しくなった子どもたちの親から子育てや、学校、地域の事などの相談を受けているうちに、現在では、地域の中でネットワークを持たないお母さんが、田中さんのところに相談に来るようになりました。

田中さんは、これからも、まかせて会員として地域の子育ての応援をしながら、多くの人とのんびり、ゆったりかかわっていきたいと話してくれました。

※1　ファミリー・サポート・センター（ファミサポ）
子育て援助をしたい人（まかせて会員）と子育て援助を受けたい人（おねがい会員）が、お互いに助けあうことで、子育てしやすい環境を整え、仕事と育児の両立を支援し、安心して子どもを育てることができるよう活動している。
保育園・幼稚園の開始前、終了後に子どもを預かることや送り迎えなどが活動内容。

●自然に声をかけあう間柄に

賤機南地区社会福祉協議会※2

青山　幸子　さん

青山さんご夫妻

昼食タイム

スタッフのみなさん

賤機南地区S型デイサービス※3「ほほえみの会」は毎月第2、第4火曜日に、地区の「白ひげ神社老人いこいの家」で開催されます。血圧測定から始まり、歌、体操、誕生会、ティータイム、一口話、ゲームと次々にプログラムが進みます。毎回必ず交通指導員のスタッフから交通事故防止の話があり、ときには振り込め詐欺など防犯のことも話題になります。そして、キーボード演奏つきの歌唱指導、昼食をとって終了。

毎回30から35人が参加するこの会は、民生委員※4でもある青山さんと岡村さんを中心に、多くのボランティアスタッフによって運営されています。悪天候や、お盆、正月などの年中行事があっても休むことなく、年24回決められた曜日に必ず開催しています。青山さんは、S型デイサービスの話があったとき、「すぐやろう！」と思い、手続きなど直ちに行動を起こしました。ボランティアスタッフはすぐに口コミで集まりました。いろいろな役を引き受けて、対外的に忙しい妻に代わって家事をこなす青山さんの夫、亘さんもボランティアとして活躍しています。

「楽しんで活動しています。何といっても、みなさんが毎回楽しみにして参加し続けてくださることが、一番うれしいです。今では、道を歩いていても、お互いに自然に声をかけあう間柄になりましたよ」とボランティアスタッフ。

青山さんは「もっと広い会場を確保して、多くの方に参加していただきたい。また、子どもたちの支援もぜひやりたい。地域のみんなと一体になれる活動を」と、地域活動に対する熱い思いを語ってくれました。会も終わり、雨の中を帰っていく後姿を心配そうに見送ったスタッフは、その後反省会を。雑談を交えながら、本日の参加者の様子を語り、どうしたら楽しめるか次回のプログラムを練っていました。

※2　地区社会福祉協議会

地区社協（地区社会福祉推進協議会または地区社会福祉協議会）は、地区住民や、町内会・自治会、民生委員・児童委員、その他地区の各種団体から選出された代表者によって構成され、住民一人ひとりが社会福祉に参加して、地域の中の助けあいを育てていくことを目的としている。現在、市内の68の地区に設置され、“S型デイサービス”や“子育てトークの会”、“ふれあい広場”など、それぞれ地域に根ざした福祉活動を展開している。

人間同士がつながる、ふれあう

NPO法人　子育て支援どろん子

石野　欽二　さん

蒲原地区で放課後児童クラブ※5を運営している「NPO法人子育て支援どろん子」。

平成8年に蒲原東小学校隣の児童センターに放課後児童クラブができましたが、蒲原西小学校の児童は遠くて通うことができませんでした。PTAや地域の住民の熱意により、西小学区の児童クラブを、余裕教室に公設民営で設置することが決まり、平成12年4月1日に開所し、13年4月からは、NPO法人化。小学生を持つ親が安心して働くことができ、広い心で支えあって、子どもも大人も心豊かに暮らせる、住みよい地域社会づくりを目的に活動しています。

放課後の学童保育だけを充実させても、育てる環境が変わらないと、子どもは健全に育ちません。どろん子では、地域の子どもが、障害者、外国人、高齢者とふれあう機会もつくっています。また、夏は流しそうめん、冬は百漁鍋（ひゃくりょうなべ）を、自然公園で開催しています。

「小さい子どもからお年寄りまで、食べることで幸福感が芽生えます。隣の人とおしゃべりをして、昔のように大人と子どものつながりをもつことから、人間の良さ、自然の良さを感じてもらおうとしています」

「近年は、どこでも隣近所のつきあいが希薄になっています。昔の蒲原は漁業とみかん農家が主流で、隣近所は仕事でも関わりあっていました。親や大人の人間関係が薄くなると、子どもたちも、そうなることが心配されます。そんな危機感から、人間同士がつながる、ふれあう機会が必要ではないかと考えています」と理事長の石野さん。

クリスマスカードづくり

放課後児童クラブ風景

※3　S型デイサービス

家で過ごすことが多くなりがちな高齢者に、公民館や自治会館など身近な場所に集まってもらい、レクリエーションやゲームなどを取り入れた簡単な体操や、会食などを通じて、心身の健康維持を図ることを目的としている。活動は、地区社会福祉協議会と地元ボランティアが担っており、現在、葵区19か所、駿河区22か所、清水区では82か所で実施されている。

※4　民生委員・児童委員

民生委員・児童委員の活動は、児童・単親家庭・障害者・高齢者など、社会福祉全般にわたっている。地域のなかで、必要に応じて住民の生活状態を把握し、生活に関する相談、福祉サービスに関する情報提供、福祉事務所その他の関係行政機関の業務への協力等を行っている。平成18年4月1日現在、市内の委員定数は1,169人でうち597人（51.1%）を女性が占めている。

“おだっくい”で楽しみながら

NPO法人　AYUドリーム

雨宮　令子　さん

東海道さった峠ゆっくりウォーク

大御所四百年祭プレイベント

“興津の観光まちづくりは地区住民の手で”を合言葉に発足した「NPO法人AYUドリーム」。

このNPOを前理事長から引き継いだ雨宮さんを中心に、地域のコミュニティの核として、さまざまな地域おこし事業を展開しています。

昨年4月から委託を受けた、地域の宝である西園寺公望公の別荘坐漁荘（ざぎょそう）の管理運営をはじめ、興津楽市、観光マップの作成、チャレンジランキング、大正ロマンのイベント、ハイキング、歴史講座など、地域おこし、魅力的なまちづくりにつながる活動をしています。最近では、興津が製餡（あん）発祥の地であることから、“あんこコンテスト”のイベントを開催して盛り上がりました。

雨宮さんの活動の原点は、“おだっくい”（静岡弁で“お調子者”などの意）の精神。同じ志の地元出身の仲間たちと興津のまちの活性化を願って、楽しんで活動の幅を広げてきました。NPO発足後は、「観光客が来るとまちが活気づいて住民の意識も変わり、地元を愛する心が生まれます」と、興津のPRにも力を入れています。まちづくりのほか、子育て支援や青少年育成などにも取り組んでいます。

今後は、自立したまちづくりを視野に入れ、参加型事業を展開するため、ボランティアの登録制度などを取り入れ、全国発信のイベント、名物の鮎を活かした地産地消の提案など、多くのビジョンを考えているそうです。次から次へ独創的なアイデアが浮かぶ雨宮さんは「とにかく人とふれあうことが大好き。楽しんで活動していると、いろいろな人の協力が得られます」と笑顔で話しています。

※5　放課後児童クラブ

近年、子どもを取り巻く社会環境の変化等により放課後児童クラブへの入会希望者が急増している。市では、平成18年度から「放課後児童クラブ緊急3か年整備計画」を実施している。計画では、余裕教室の活用や専用施設等の小学校敷地内への設置により対応の予定。（11ページ参照）各クラブの運営は、静岡市社会福祉協議会や地区青少年育成推進委員会、NPO法人など地域の実情に合わせて行われている。

彼女の後姿を見送りながら
・・・人と人　地域をつなぐということ

（社）静岡市社会福祉協議会
清水区地域福祉センター地域福祉課長　種石　進さん

ある眼科医院で、たまたま耳にした会話。
「私の眼、いつまで見えているでしょうか」
「おいくつまで生きたいと思ってますか？」
「93歳なので、100歳くらいまでは」
「じゃ、それまで見えるようにがんばりましょう」
「息子は、つくば市に住んでいます。早く一緒に住もうと言われていますが、私は、住みなれた静岡を離れたくない。でも、眼が見えなくなったら、息子のところへ・・・」

私は、この女性が診察室から出ていく後姿を見送りながら、ひとり暮らしのお年寄りの思いや、彼女を取り巻く人たちの思いを想像してしまいました。生まれ育った地域を離れたくない、子どもたちに心配をかけたくないという葛藤、高齢の母親を案じる息子さんの心情、彼女の近隣に住む人たちはどんな気持ちで接しているのでしょうか。

さて、ひとり暮しの高齢者を支える制度として、介護保険によるサービスがありますが、はたしてそれだけでよいのでしょうか。介護保険サービスは、その人の生活の一部を切り取ってその中でのニーズに応えるサービス。しかし、これだけでは、生活の質を上げることはできません。

そこで求められるのは「小地域福祉活動」という、地域の人たちが参加し、関係機関や行政などと連携を取りながら、地域の中で福祉的課題を持つ人たちを支える活動です。

この活動のポイントは、その人を地域の中で孤立させることなく、「つながりづくり」を進めていくことです。この小地域活動、あるいは、小地域福祉活動の良い点は、①問題・課題の早期発見・早期対応が可能。②住む人たちの生活リズムを変えないで対応することができる。③大きな負担なしで活動に参加できる。④近くで見守ってくれるという安心感がある。⑤いざという時に駆けつけてくれるという安心感がある。などが挙げられます。

すべての人は、いつか高齢期を迎えます。誰もが安心して、それぞれの生をまっとうできるように、「つながり」「支えあい」を広げていきたいものです。

取材を終えて

（編集スタッフ）

いろいろなカタチの地域活動があります。同じ思いの仲間と楽しんで活動することが原動力になって、活動の輪が広がっていく様子がよくわかりました。ちょっとした声かけから、いろいろな人とのつながりが始まります。まずは身近なところから、自然な笑顔でできる活動を探していきませんか？

狩野直子

「人　つながる」は、決して“もしも”の災害時やアクシデントに限らず、日々の暮らしで出会う喜びや苦しみ、何気ない出来事を自分以外の人と分かちあい、支えあうこと。それが本当の生きる豊かさ、力につながっていくことを改めて感じました。一人ひとりのつながりが大きな輪となって、地域力が磨かれていくのですね。

久保田さきの

「人が好き、子どもが好きなのです」と何のてらいも無く言いきってしまう田中さんは、私には新鮮でした。毎日の暮らしを大切にしながら周りの人へやさしい想像力を持って接するうちに田中さんの周りに大きな輪ができつつある。そんな輪の中に私も「つながってもいいですか？」

中村洋子

人と人がつながりあって活動しているところには、いつも笑顔がありました。「誰かを手助けしたい」「だれかを笑顔にしたい」と思いやりの気持ちをもって活動しているからでしょうか。ご近所・地域で支えあい、生きやすい・人にやさしい街、静岡市でありたいと感じました。

山田友美

シリーズ
起業・SOHO通信
No.8

SOHO@しずおかでは、公的インキュベート施設としては珍しく、入居者の半数以上が女性。相談者と同じ目線にたったスタッフの対応や女性起業家の成功事例を情報発信することで、男女共同参画を実現しています。今回は、入居者のおふたりに寄稿いただきました。

レッドフォード賀代子　さん

静岡で仕事をするための起業

子どもが生まれて仕事の量を抑えていたのですが、幼稚園に行くようになって、やっと「さぁ、仕事量を増やそう！」と。勢いはあったものの、まだまだ東京で通訳をするには子どもが小さすぎるので、静岡で本腰を入れるべき時かもと考えたら、起業という形になりました。

通訳という仕事は東京に集中し、翻訳もなぜか首都圏の翻訳会社に流れる傾向があるので、起業は「存在」を知ってもらうための手段だったとも言えます。

英語の通訳や翻訳を行っています

最近、韓国語や中国語のできる人も見つかったので、その方々に依頼する体制が整いました。日⟷英翻訳は日本語から英語が約9割です。日本の情報を世界に発信したい企業や団体は増えているので、英字新聞の記者をやっていた経験も活かして、そちらのお手伝いをすることのほうが圧倒的に多いです。

翻訳者のネットワークが作れたら

たくさんの翻訳者を抱えて事業を大きくしようとは考えていませんが、翻訳者のネットワークを作れるといいかなと思います。お互いに得意分野の仕事を任せあえるような関係はいいですね。あとは、通訳の仕事の量が増えるように少し動いてみたいと思っています。

SOHO@しずおかには人の動きが

人の動きがあるので、ネットワークが広がることが大きなポイントだと思います。いろいろなチャレンジ精神を持っている人が訪れる場なので、いい刺激をもらっています。

静岡通訳翻訳サービス
http://www.tsuyaku-honyaku.com

岩　科　蓮　花　さん

起業のきっかけはブログ

以前、広告代理店に勤めていたとき、どうしたら『伝わる文字』が作れるのだろうと思って、自分への訓練を兼ねてブログで作品を公開したところ、なぜか雑誌やラジオ・テレビに取り上げられるようになってびっくり。

当時、派遣社員で、ちょうど契約が切れる節目のときでした。周りからの助言や、SOHOビジネスプランコンテストに応募したのもきっかけとなって2006年4月、思いきって起業しました。

デジタル・アナログを使って筆文字を

パンフレットやカタログ、パッケージの筆文字を書いています。文字の一部を「お餅」や「ぶどう」にしたり、ときには絵と組み合わせたり、字のもつ雰囲気を大切にして『伝わる』文字を作っています。また、イベントで字を教えたり、賞状や招待状の筆耕も承っています。

文字の素晴らしさを表現できたらいいなと

首都圏はもちろん、海外にも作品を発信できたらと思っています。例えば映画のタイトルや海外のショップのパッケージなど。考えただけでもわくわくしますね。また、自分の作品を発表する機会（作品集や個展など）も持ちたいと考えています。その前にもっと自分のスキルをあげることが先ですが。

SOHO@しずおかは精神面で大きな支え

料金交渉や、経営・税についての話など、ひとりでは心細いことも気軽に相談しています。相談に来られた方と縁ができて、そこから実際仕事につながったりすることも嬉しいです。

クリエイティブ書家　岩科蓮花
http://lenca.exblog.jp

※　事務所は、静岡市葵区紺屋町3番地の10　静岡中島屋ビル6F　SOHO@しずおか内
TEL　054 - 653 - 8800　FAX　054 - 653 - 8801

シリーズ
元気なグループ紹介
No.8

静岡県では、農林漁業の場での女性のリーダーを養成するため、“農山漁村ときめき女性”を認定し、研修を行うなど、その活動を支援しています。今回は、同制度で認定された清水区の女性グループを紹介します。

清水 味の彩り研究ネットワーク

「清水味の彩り研究ネットワーク」は、清水区内で夫とともに農業を営んでいる女性たちのグループです。メンバーは13人で、それぞれ、お茶、みかん、花、水耕ねぎ、米、梨、いちじくなどを栽培しています。作物が多彩なところは、清水の農業の特徴ですが、各地域の女性が“ときめき女性”に認定されるという出会いが設立のきっかけでした。

当然家業をおろそかにはできないため、みかんやお茶で忙しい時期は避けて、月1回の定例会で情報交換や活動の準備を行います。足りない分は電話連絡やチームごとの集まりなどで補っています。静岡県中部農林事務所や静岡市認定農業者協会、JA女性部など関係機関の協力もいただいています。

発足当初は、「地域資源である、人、農作物、自然を活用した、清水らしいみやげものを作りたい」と考えていました。活動を続けていくうちに、自分たち自身が元気になれる最大の喜びは作った農作物が売れることで、そのためには、まず、地元の人たちに農業の現場を知ってもらったり、野菜の食べ方を伝えていくことが必要だと考え、農業の現場にいるからこそできる活動を探し始めました。

まず、親から子へと脈々と伝わってきた生活様式が失われそうな今だからこそ、みんなに伝えたいという思いから、興津川を会場にして、親子を対象に“お釜でごはん炊き”というイベントを平成11年から3回実施しました。また、こんにゃくづくりを体験する催しも行いました。

また、7年間続けて取り組んできたのが、“ふるさと食品アイディアコンクール”です。「地元で収穫される農作物をたくさん使ってもらいたい」「大勢の人においしい食べ方を知ってもらいたい」と考え、毎年、会員みんなで、地元食材にこだわったテーマを検討して、アイディア料理を募集します。応募者には料理を作って会場まで持参してもらい、およそ80人の市民と専門家が一口ずつ試食して審査します。入賞作品は、清水農業まつりや各種イベントなどの機会に、料理を実演し、来場者に試食してもらうなどPRに努めています。

最近は、民宿やレストランから、メニューに取り入れたいという声をいただくようになりました。このようにアイディアコンクール生まれのレシピがいろいろな場で活用され、やがては“郷土の味”として育っていくことを願っています。

今、思い返すと、一人ひとりがそれぞれ“点”で農業をしていただけでは何も起こらなかったと思います。私たちが集まり、みんなで考え、行動し続けたことで、市民のみなさんに何か気づいてもらうことができ、つながりが広がっているのだと考えています。

コンクール風景

メンバーのみなさん

進んでいます　行動計画！

― 市役所各課の取り組み紹介 ―

現在、静岡市が実施している男女共同参画行動計画（平成16年3月策定）では、掲載された215の事業を、全庁的に推進しています。5年間にわたる計画の中間年が過ぎ、今後、平成19年度から2年間で、次期改定計画を策定していきます。

今回は、これまでの各課の取り組みのうち、その斬新さや波及効果などから、特色あるものを紹介します。

教職員研修の充実

市教育センターでは、教職員向け研修に男女共同参画に関する内容を盛り込み、教職員自身の意識改革、男女平等教育の充実に努めています。

平成18年度事業のうち、市内小・中学校の新任教諭全員を対象にした新任者研修では、男女共同参画の視点から学校教育を考えるため、“ジェンダー”や“隠れたカリキュラム”などについて学び、子ども達にどのように接していくかを考えました。また、小・中・高等学校教諭を対象とした希望者研修では、静岡県が発行した“男女共同参画を考える副読本”の授業での活用法を内容とした、より具体的な研修が行われました。

女性の就労を支援する各種学習機会の提供

産業政策課では、昨年度に引き続き、3月17日“第2回静岡発!　女性ビジネスフォーラム”を開催し、県内外から多くの参加者を集めました。

この事業は、“起業が女性の社会参画に有効な手段である”という認識から、“女性と起業”というテーマに特化して企画されたもの。各界で活躍する著名なゲストや地元出身の女性起業家などが、パネルディスカッションや分科会を繰り広げるとともに、ネットワークづくりの交流会も催され、創業しやすいまち、女性が元気なまちづくりの実現に向けての情報発信を行いました。

後継者育成事業への女性の参画促進

地域産業課では、竹千筋細工、漆器、指物、蒔絵、挽物など伝統産業界の後継者育成のためクラフトマンサポート事業を実施しています。この事業では、平成13～18年度の長期実習者20人のうち、10人を女性が占めました。

実習生として2年間伝統工芸技術についての専門的指導を受けた後、約半数以上が、地元業界講師のもとで従業員として引き続き雇用されています。その他、伝統工芸技術の保存のための講習会等にも女性の積極的な参加が見られます。

家族経営協定の締結促進

農業委員会では、家族経営協定の締結促進を図っています。この協定は、農家の家族間で労働条件や報酬などについて文書で取り決め、共同経営者としての地位や役割を明確にし、近代的な農業経営を目指し農業後継者の育成を図るための制度で、平成17年度までに累計40組の家族で締結されました。

男女共同参画行動計画では、平成20年度末までに、60件以上の締結を目標値のひとつとしており、その達成に向けて、農家への働きかけを行っていきます。

留守家庭児童事業の充実

児童福祉課では、放課後児童クラブへの入会希望者が急増しているため、平成18年度から「放課後児童クラブ緊急3か年整備計画」を実施しています。

この計画は、①小学1～3年生の児童数が50人以上の小学校区全てに放課後児童クラブを設置すること②計画完了後の平成21年度当初には3年生以下で入会を希望する児童を概ね全員受け入れることを目標にしており、3か年以内に未設置学区7か所への新設を含む42か所の施設の整備拡充を順次実施します。

相談事業のネットワークづくり

男女共同参画課では福祉総務課との共催で、DV被害者保護に関する研修会を毎年開催しています。DV被害者に対する相談体制を確立するため、窓口関係課、学校、幼稚園、保育園など、被害者及びその親族と直接関わる可能性がある部署の担当職員などを対象にしており、DVの実態について、調査報告や、福祉事務所婦人相談員の報告などを通じ、職員のスキルアップを目指しています。

これらの事業は市役所各所管の本来業務に男女共同参画の視点を持ち込むことにより、事業に独自性と広がりをもたらした好事例です。

行動計画に掲載された事業のみならず、あらゆる分野の施策についてこのような視点で見直し、静岡市全体として男女共同参画社会の実現を目指した取り組みを推進していきます。

行動計画進ちょく状況についての意見書

静岡市男女共同参画審議会（河合代悟会長、鍋倉伸子副会長）は、2月22日、静岡市男女共同参画行動計画の平成17年度進ちょく状況についての意見書を市長に提出しました。概要は以下のとおり。

★4つの重点施策の取り組みに対する意見（主なもの）

1　家庭生活とその他の活動の両立支援の分野

①ワーク・ライフ・バランスの実現を目指し、男女とも働き方の見直しや長時間労働の回避など、労働環境の改善につながる施策を進めること。

②育児・介護休業について民間での取得が向上するよう、まず市の職員が率先して取得すること。

2　政策・方針決定への女性の参画推進の分野

①市審議会の女性委員の登用について、目標値「2008年30%」に達しない可能性があり、充て職の緩和、公募委員の登用促進等具体的な対応を図ること。

②市の女性職員について、長期的視点に立った計画的な人事運用によって、管理職への登用を積極的に行うこと。

3　女性に対する暴力の根絶に向けた取り組みの分野

DV被害者の救済に係る情報の周知について、なお一層努めること。

4　市民との協働による男女共同参画の推進体制の分野

市民団体等の専門性や幅広い人材を活かした事業を展開するため、市民団体間等のネットワークの強化を図ること。

★　次期計画への意見

少子化、高齢化、社会における格差の拡大及び団塊の世代の退職等社会の動向について、男女共同参画の視点から見据え、また国の政策にも留意した、時代を先取りした計画とすること。

男女共同参画の視点で図書紹介

女性会館図書コーナーから、パザパ誌面に掲載した記事に関連のある図書などをこのコーナーで紹介します。

『起業本能　－夢を生みだす女たち－』

田畑則子著／サンマーク出版

困難と思われる状況の中でも、意志を貫き、やり遂げる。女性起業家49人を、筆者が取材し、それぞれのエピソードを文章と写真で紹介している一冊です。「誰にでも人生のターニングポイントがあり、そのときどう向き合い、進んできたかで『今』がある」彼女たちの物語が、今何をすべきか、より活動的になりたい、と思う女性たちの一助になればと思います。筆者が輝く彼女たちから感じた「起業本能」ともいうべきパワーを、みなさんも感じてみてください。

『地域リーダー力　女性リーダーの育ち方・育て方』

荒金雅子・川端美智子・森野和子著／パド・ウィメンズ・オフィス

女性のエンパワーメントを支援してきた著者らが、男女共同参画の視点にたった地域リーダー養成のノウハウについてまとめた本です。リーダーに必要なスキルや人材育成の考え方・進め方などを、具体的・実践的に説明しており、女性が自分の力を地域で十分発揮するために必要な情報が満載です。地域で活動しているリーダーの方、またこれからリーダーをめざす方、地域リーダーを育てたいと日々取り組んでおられる方々にぜひ活用していただきたい一冊です。

『ぐるぐるしてる、オンナたち。』

k.m.p.（ムラマツエリコ、なかがわみどり）著／角川書店

「すきなコト」で仕事をつくって生きていこうと金(k.)もーけ(m.)プロジェクト(p.)を立ち上げ10年以上やっている2人が、仕事、結婚、出産、オンナの生き方などを立ち止まってぐるぐる考えた、本音凝縮のイラストエッセイ。オンナとオトコと世の中のしくみについて、ヘンだな、フシギだなと感じ始めたけれど、難しい本はちょっと・・・という方におすすめの本です。この本の目次は、共感したらチェックを入れるチェックシートになっています。チェックしながら読むのも楽しい一冊です。

『女職人になる』

鈴木裕子　著／アスペクト

職人の世界といえば男性中心の社会・・・というのはひと昔前の話？最近、20代～30代の女性の中で「職人になりたい」という声を聞くようになり、実際に職人の道を歩み始めている人が増えています。いったい、彼女たちはどのようにして職人になったのか、師弟関係や修業生活とはどんなものかを取材し、その仕事に就くまでのコース、収入、「女性」のメリット・デメリット、将来性などをまとめています。職人を目指す方だけでなく、「自分の人生、思うように生きたい」と考える方にもおすすめの本です。

Pas à Pas パザパ
男女共同参画社会へ一歩いっぽ近づくための情報誌

発行／静岡市総務局企画部男女共同参画課
企画編集／市民編集スタッフ　狩野直子・久保田さきの・中村洋子・山田友美　イラスト　利根川初美
〒420-8602　静岡市葵区追手町5番1号　☎054-221-1349
http://www.city.shizuoka.jp/
e-mail:sankaku@city.shizuoka.jp ●パザパ8号のご感想をお寄せください。

R100 古紙100%の再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK 環境にやさしい大豆油インクを使用しています